

思いの吐露は感動を呼ぶ



認定 NPO 法人おやじ日本
理事長 竹花 豊

今年の全国大会も無事盛会のうちに終わることができました。皆様のご支援、ご協力に感謝申し上げます。

そのテーマは「パラスポーツの未来Ⅱ ～パラリンピアンから元気をもらおう～」でした。参加いただいた400名を超える皆様は、元気をもらえたでしょうか？

彼らの笑顔は心からのもので、取り繕うことのない率

直な発言は私の予想を超えるものでした。ダニエルさんが、パラスポーツを何も知らない立場から、率直な意見や質問をなされたことで、親しみの持てる議論になり、また、早川さんが上手に会場と結びつけ、新たな感動を呼び起こしました。当日のポッチャの試技に協力いただいた光明学園の高校生の声を絞り出しながらの発言、

演奏をしていただいたはっぴオールスターズのメンバーの一人の障害もたらした苦難の吐露、4百回を超えてマラソンを完走してきた視覚障害者のマラソンへの強い思いと決意の表明などは私を感激させました。この大会をやって良かった、来て良かったと思われた方は少なくないと思います。本当にありがとうございました。

さて、おやじ日本は、子どもたちに企業のみなさんの授業をお届けする未来教室と名打った事業などこれまで通りの活動を継続していきます。そして、まもなく、来年の全国大会の準備を始めます。障害者のスポーツからもっと学びたいことがあると思います、来年のテーマも引き続きパラスポーツにしようと考えていますが、これからの検討の過程でどのように行っていくのか、誰もわかりません。皆様のご意見をお待ちしております。少し時間を短くできないかとの意見をいただいております。検討事項にします。

今後ともおやじ日本をご支援いただきますように、心よりお願い申し上げます。

平成29年通常総会、無事終了

6月25日(日)午前10時より、大会会場の渋谷区文化総合センター大和田大練習室にて、平成29年度通常総会が開催されました。

総会では、司会を伊東一吉副理事長、議長に二村好彦副理事長を選出後、平成28年度事業報告、収支決算及び監査報告、監事の選任について審議が行われ、監事として岩崎智彌監事が再任され、全ての議案が可決されました。

審議事項

平成28年度事業報告について
平成28年度収支決算報告について
監事の選任について

報告事項

平成29年度事業計画について
平成29年度予算について
理事について
理事長、副理事長及び常務理事について
理事の担当職務について
事務局職員について
認定 NPO 法人申請結果について



↑再任された↑
長坂敏史監事 岩崎智彌監事

理事及び監事

理事長	竹花 豊
副理事長	二村 好彦 伊東 一吉 納富 善朗
常務理事	小山 洋子
理事	浅野 悦洋 伊沢 公晴 石橋 昌祐 小池 英仁 澁谷 豊 寺澤 恵太郎 布村 幸彦 森田 孝明 山口 敏 山下 哲夫 和田 英光 渡部 徹 渡辺 嘉郎
監事	岩崎 智彌 長坂 敏史

第15回認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会 パラスポーツの未来Ⅱ「パラスポーツから元気をもらおう！」 【基調講演】(要約)「冬季パラリンピックがやってくる」 大日方邦子氏 (一般社団法人日本パラリンピアンズ協会副会長)



私はこの渋谷に10年以上暮らしている区民です。パラリンピックにはアルペンスキーの選手として1994年のリレハンメル大会から5回出場しました。来

年の平昌大会にはパラリンピックの日本選手団の団長として、選手とは違う立場でまた参加できるのは、とても緊張もしますが、ワクワクもしています。

私自身、5回のパラリンピックの中でとりわけ思い出に残っているのが20年前の長野大会で、このとき金メダルを取れたのは、沢山の方の応援があったからだと思います。

エピソードを紹介します。アルペンスキーは山の上からひたすら滑り降りる競技で、スタートラインからはゴールの様子はまったくわかりませんが、ゴールにいるコーチが無線ゴールの観客の地鳴りのようなものすごい歓声を聞かせてくれました。ああ、あの歓声の中に下りていきたいなと心から思いました。途中で転倒しかけたところもありましたが、でもゴールしなかったら皆さんのあの歓声の中には行かれないというのが力になって、何とかゴールをすることができ、結果は金メダルでした。本当にたくさんの方が応援してくれること、それがまさに選手の力になる、そんなことを体験していたからこそ、来年の平昌大会、そして2020年の東京大会も、選手たちにぜひたくさんエールを送っていただければと思っています。

パラリンピックの夏の大会は、全部で22競技がありますが、冬の大会は6競技です。

まずクロスカントリーのスキー、雪上のマラソンとも呼ばれています。平昌大会ではベテランの新田選手にメダルを期待しています。彼は左手の肘から下を切断していますので、ストック1本で走ります。

バイアスロンは、雪上のクロスカントリーで走っている途中で的に向かって射撃をする競技です。心拍数が上がっている状態の中で小さい的を銃で狙いますのですごく難しい競技です。

スノーボードには初めて日本の選手が出場します。二つの競技があって、一つは二人が一緒に滑って、どちらが

早くゴールできるかを競います。もう一つはすごくうねうねしたコースをどれだけ速く滑り降りられるのかを競います。

アイススレッジホッケーは、座ってやるアイスホッケーで、すごいぶつかり合いがあったり迫力満点です。日本が出場できるかどうか、10月に行われる最終予選の成績にかかっています。万が一出場できないとなると、日本選手団はかなり人数が少なく、寂しい団になってしまいます。できるだけたくさんの競技に日本からも選手が参加できるように、最終予選にも日本から皆さんでエールを送ってください。

車いすカーリングは、カーリングと競技会場、ストーンは同じですが、スイープはしないで、1投でストーンを的に近づけます。残念ながら日本は予選で負けて、今回は出場できませんが、すごくおもしろい競技で、長野県軽井沢町にこの練習場がありますので、皆さんも、車いすの方も、視覚に障がいのある方も、ユニバーサルなスポーツとして体験してみてください。

最後にアルペンスキーです。立って滑るクラス、座って滑るチェアスキーのクラス、そして視覚障がいの方はガイドのスキーヤーと一緒に滑ります。片足スキーヤーの三澤拓選手、チェアスキーの村岡桃佳選手などにメダルを期待しています。視覚障害のアルペンスキーでは、前を滑るガイドスキーヤーの指示を頼りに時速100km以上のスピードで降りてきます。百聞は一見にしかずで、選手が競技をしているところを実際に見ると、その面白さ、素晴らしさ、無限に可能性が広がることをお分かり頂ける事と思います。

今日はパラリンピックの話だけをしてきましたが、パラリンピックに出場しない選手たちもスキーを滑る沢山の方法があります。例えばバイスキー、2本のスキーの板がチェアスキーの下に付いています。障がいが高く腕にまひがある人、あるいはバランスを取ることが難しい人たちも楽しめます。こういうスキーも含めて、色々な障がいのある人達が気軽にスポーツを楽しめるようになることが、パラリンピックをきっかけにこの日本中に広がってくれることを期待しています。皆さん冬のパラリンピックも面白い、そして夏ももちろん面白い。ぜひ見て、そして実際に体験して頂きたいと思っています。

【デモンストレーション】「やってみよう ボッチャ」

協力 日本ボッチャ協会・東京都立光明学園生徒

A チーム(黄色)

高橋猛さん(都立光明学園高校1年生)
朝日墨治さん((都立光明学園高校1年生)
長谷部健氏
伊東一吉おやじ日本副理事長、
布村幸彦おやじ日本理事

B チーム(青色)

山本薫風さん(都立光明学園高校3年生)
上原大祐氏(解説&実演) アシスト 荻野智史氏
早川信夫氏
ダニエル・カール氏
竹花豊おやじ日本理事長



↑ 解説と実演 上原大祐氏



↑ ナイスショット！思わず拍手



上原大祐氏の進行で、おやじ日本のメンバー、都立光明学園の生徒さん、パネリストの混成チームでボッチャの楽しみ方をデモンストレーションしました。

ボッチャはカーリングと似ています。2 チームで赤と青のボールを投げ、白の的ボールにより近いところにボールを置くことで点数を競います。それぞれ1投を行い、次からは的から遠い方のチームが手、またはランプという道具を使って投げます。会場では2タームを行い、1対1の引き分けで終わりましたが、会場は大いに盛り上がりました。

富士通株式会社よりボッチャボールセットの贈呈！



← 富士通株式会社
スポーツ・文化イベント
推進本部 統合企画室
藤原 達郎 様



→ 右 おやじ日本理事
寺澤恵太郎
← 左 神奈川県立藤沢
養護学校星野英俊先生



【パネルディスカッション】(要約) 「パラリンピアン大いに語る！」



早川 まずパネリストそれぞれからお話をさせていただいて、そのうえでパネリスト同士で議論をし、そのあと会場の皆さんとやりとりをしながら進めていきたいと思います。

上原 私は 2006 年と 2010 年のパラリンピックにアイススレッジホッケーで出場しました。スレッジというソリのような乗り物に乗り、両手にスティックを持ち、氷をかいて進んだり、シュートをしたりします。アイスホッケーと同じようにがんがんぶつかり合う激しい音とスピード感が楽しめるスポーツです。10 月の予選で日本代表が勝てば、平昌大会に出場することができます。

私が代表を務める NPO、D-SHiPS32(ミニ)は、特に障がいを持った子どもたちにもっともっとスポーツをする機会をつくる活動をしています。私は世界の中では小さいプレーヤーで「ミニ」と呼ばれ、背番号も 32 でした。D-SHiPS の D はドリーム、子どもたちの夢を運ぶ船です。子どもたちが夢にチャレンジできる社会を創造し、パラスポーツをもっともっと広げたいと思います。



山本 私は水泳やアイススレッジホッケーもやっていて、そしていまはパワーリフティングで 2020 年を目指しています。また同時並行で日本財団パラリンピックサポートセンターでパラリンピックの普及啓

発活動の仕事もしています。

その一つの取り組みが、「あす！チャレスクール」、パラアスリートが小・中・高にお邪魔して実際に競技を体験したり、見ていただくことによってパラスポーツの大切さ、障がい者理解を深めようという事業です。今年は全国の 250 校をキャラバンで回ります。また「あすチャレ！Academy」は大人の方々に、当事者講師が自分たちのリアルを伝えることで皆さんにも一歩踏み出していただく。そして私たち障がい者も一歩踏み出して、健常者と障がい者がともにコミュニケーションがうまく取れる世の中にしていくことを目的にしたセミナーです。最後にいま一番ホットな事業、「I'm POSSIBLE」は、国際パラリンピック委員会公認のパラリンピック教材を全国

コーディネーター

早川 信夫氏(NHK 解説委員)

パネリスト

上原 大祐氏(NPO 法人 D-SHiPS32 代表)

大日方 邦子氏(一般社団法人日本パラリンピアンズ協会副会長)

ダニエル・カール氏(タレント・山形弁研究家)

長谷部 健氏(渋谷区長)

マクドナルド山本恵理氏(日本財団パラリンピックサポートセンタープロジェクトリーダー・パワーリフティング選手)

の約 2 万 3000 校の全小学校に配布しています。

大日方 20 年前、日本でスキーブームがあり、私もやってみようと思いましたが、周りから絶対無理と言われて一度は諦めました。でも 17 歳のとき、チェアスキーという道具と出会えてスキーを始め、雪のすばらしさに目覚めたことが原点です。そしてやがてパラリンピックに挑戦するようにもなりました。

長野パラリンピックの経験や、たくさんの人の応援で、できなかったことがもっとできるようになり、このすばらしいスポーツにどんどんはまっていき、気がつけば約 20 年競技に集中していました。引退をしてからは競技団体の側として後輩の選手たちのサポートをしています。

カール 私はパラスポーツとはまったく関係ありませんが、ボッチというアメリカ版のボッチャのアメリカ選手代表です。いま 87 歳の親父は元消防士でとてもアクティブな人でしたが、この 3 年間は足腰が弱っていまは車いすです。唯一できるスポーツがボッチで、私も教えてもらって毎年フロリダに帰ったときに親父とその仲間たちと一緒にやっています。ボッチが楽しいのは、力ではなくて技術、そしてプレーをしながらの会話です。皆さんもぜひやってボッチャをやってみてください。やってみなければその楽しさはわからないものなのです。

長谷部 区長になってからパラスポーツといろいろな縁ができました。渋谷区には 2020 年のパラリンピックのウィルチェアラグビー、パラ卓球、パラバドミントン、この 3 種目の会場があります。前回のリオパラリンピックのときもウィルチェアラグビーの練習場所をご提供して縁を紡いでいます。

渋谷区は基本構想を 20 年ぶりに改定しました。20 年先の新しいビジョンとして「違いを力に変えるまち渋谷区」が一番大きなステートメントになりました。これは多様性、ダイバーシティ&インクルージョンを多分に意識したもので、2020

年のパラリンピックは人々の意識を変える大きなチャンスだととらえています。オリンピックは黙っていても成功する、でもパラリンピックの成功こそが成熟した国際都市の条件であり、それを渋谷区は目指しています。

早川 パラスポーツとのかかわりをお話しいただきました。たぶんいろいろな選択肢があったと思いますが、その中でスポーツを始めたのはなぜですか。



上原 高校生のとき長野パラリンピックを身近に感じたことと、もう一つが、車いすの社長さんがアイススレッジホッケーをやっている、よく車いすを壊すやんちゃな私を誘ってくれました。大学2年生のときで、それまでトランペット、ピアノ、またバスケットなどもやっていましたが、いま一つセンスがなかったのですが、氷の上に立ったらものすごくしっくりきて、自分のフィールドだと感じました。

山本 最初の出会いは水泳で9歳のとき、それまで何もできなくて体育も見学しているばかりでしたが、母が私を受け入れてくれる水泳教室を探して始めました。私はいままで水泳、アイススレッジ、パワーリフティングの3競技をやってきましたが、はまったきっかけはいずれも近くにあこがれのパラリンピアンがいたことです。

大日方 初めてのパラリンピックは、選手としてはスタートのころで、本当は出られなかったと思いますが、98年に自国、長野で開催され、ちょうどいまの東京大会を目前にしているのと状況は似ていて、若い選手をそこで育てようということでもらいました。

そこで出会ったパラリンピアン、アメリカのサラ・ウィル選手はとにかくカッコよかった。彼女から、「邦子、私たちはすごいことをやっているんだよ。パラリンピックは多くの人に私たちがこんなに難しいコースを滑ることが知らせることができる。できないと思っていることも、努力したり工夫をすることでできるということを伝えられる。だから私たちはすごいことをやっているんだよ。もっと自信を持って行こうよ」と教えてもらいました。

早川 大日方さんはパラリンピックとのお付き合いが長いのですが、その変化をどうとらえていますか。

大日方 長野大会のとき、オリンピックはものすごく盛り上がっても、パラリンピックは競技会場にだれもいなくて寂しいことにならないといいなと思っていました。当時パラリンピッ

クはほとんど知られていませんでした。チェアスキーの練習もそりは危ないからだめと断られる。そんな状況だから難しいと思っていたのですが、先ほどお話ししたように観客がものすごくいっぱい来てくれました。

でも終わって見たら祭りの後、急に関心がなくなって、気がついたら支えてくれる人も全然いないという状況で、4年に1回だけ不思議に盛り上がるというのがパラリンピックです。でもちよつとずつ関心は高まっています。パラリンピックを見てみればやっぱりおもしろいと、少しずつは広がり、それが一気に変わったのは2020年の東京大会が決まったときからです。

早川 おそらくする側ではなくて、見る側の意識が変わらないと変わっていかないのかなという気がしますが、見る側として、どうですか。

カール 初めてパラリンピックを耳にしたのは長野大会でしたが、そのあとしばらく聞かなかった。結構力を入れていると感じたのは北京大会、特にロンドン大会からは、宣伝的にもオリンピックと同じぐらいに力を入れていたと感じています。

長谷部 パラリンピックをみんながもっと知って盛り上げていくことがレガシーになってほしいと思うし、決してハードをつくっていただけがレガシーではない。そういった意識の変化をこの2020年のレガシーにできたら、東京パラリンピック大成功だったと言えると思います。

ロンドンはすべてにおいて、いままでの最高峰だと言われているんですが、実際キャンペーンのポスターはカッコいいパラアスリートが黒バックでいい写真で出ていて、そのコピーが“Meet the Superhumans”「超人たちに会いに行こう」でした。手を差し伸べる対象から尊敬の対象に変わっていくことを描いていました。それが意識として多くの人に伝わったと思うし、その後のまちづくりでも車いすの方の意見を聞こうとか、そのように政策が進んでいます。

大日方 国際パラリンピック委員会は、リバーエデュケーション、子どもから大人に伝えられることがあると言っています。子どもがパラリンピックの選手と会った、パラリンピックはおもしろいんだよ、あそこの大会



に今度見に行こうよと大人を誘う。あれこれ考えるよりも、まず選手たちと触れ合ってもらえればと思っています。

早川 これからを考えると、いわゆる障がいのある子どもたちがどうパラリンピアンを目指すのか、また支える人たちや見る側の見方をどう育てるのか、二つの課題があると思います。

上原 私も小学校によく行きますが、講演会が終わったあと、私の車いすの後ろに行列ができて、僕が押す、私が押すの取り合いになります。小学校に行くたびに私はもてます。その講演会をきっかけに私のファンになってくれて、そのファンの子どもたちが会場に足を運んでくれるととてもうれしいし、われわれも応援があればあるほど力になります。

長谷部 応援がアスリートにとってすごく糧になるので、応援は大事だと思います。でも応援の仕方が僕らはあまり上手じゃなくて、新しい競技とかは盛り上がりどころを間違えてしまったりしますので、応援の仕方をもっともっと学ぶ必要があると思います。

山本 パラアスリート自身も、自分がする楽しさとまた見てもらう楽しさ、この二つをセットに伝えることが皆さんに見てもらう第一歩なのではないかと思っています。

早川 アルペンが山の上から転げ落ちるようで、楽しいのと危ないのと両方あると思います。

大日方 楽しさと怖さは紙一重ですが、気持ちいいという感覚を一つずつ体験していくことで、結果的には強くなっていくと思います。

早川 アイススレッジホッケーの場合はぶつかり合いで、それこそしょっちゅう人がケガをすると聞きますが。

上原 まずチームスポーツだということが、おもしろくて好きなところ。仲間と目と目が合った瞬間、そのタイミングは信頼関係ができるほど一致してすごい気持ちいい。だからいくら骨が折れようと、そこのアイコンタクトが最高に楽しいという感じですね。

早川 山本さんはパワーリフティングですが、おもしろいんですか。



山本 トレーニングをすればするほど自分の体が変わっていくので、自分の変化を感じられるという意味ではすごくおもしろいです。

早川 会場には障がいのある方々もいらっしゃるのですが、パラスポーツを目指そうという気になりましたか。

生徒 光明学園高等部3年です。車いすバスケットなどのパラスポーツをやっていますが、皆さんの話を聞かせていただいて、もっとパラに向けて頑張っていこうと思いました。

生徒 光明学園高等部1年です。皆さんのようにパラスポーツのおもしろさを見せたいと思います。

早川 はっぱオールスターズでやりたいという人はいますか。

生徒 パラリンピック、ボッチャをやってみたいです。

生徒 パラリンピックは水泳をやりたい。

早川 これからどう

広めていったらいいかというところを議論したいのですが、たぶん環境として社会の無理解があると思いますが、それを乗り越えるにはどうしたらいいのか。長谷部さんはダイバーシティとかいろいろ取り組んでおられますが。



長谷部 その意識をどうやって変えていくか、僕は感じてもらうということが一番早いと思います。頭でわかっているでもハートでどう感じるか、エモーショナルにどう感じるか。こうやって生で会ったり、話を聞いたりして感じる事が非常に大切だと思うので、パラリンピアン、障がいを持っている方はぜひ多く露出してほしい。それがまちの景色としてその姿があるように、いろいろな仕掛けを渋谷区でやっていきたいと思っています。

早川 アスリートの皆さんには、おそらく出会いのところの魅力を語っていただきましたが、自分やりたいと思っても、周りの人が理解してくれるかという問題もあると思います。すんなりと理解されたのか、それともそれを乗り越えるためにどんなことがあったのか、お話しいただけますか。

大日方 長野パラリンピックのあと、チームで活動できる状況ではなくなって一人で練習しなくてはいけなかったときに、たくさんの方がうちのチームと一緒に練習しようよと声をかけてくれました。健常者と一緒に滑っていると高校生たちも手伝ってくれるようになりました。一緒にやっていくとい

うところがすごく大きな一歩になるので、こうやって皆さんにお話をする機会とか、一緒に体を動かす機会が増えると、どんどん変わっていくのではないかと思います。

長谷部 行政側もいままで課題があって、初めてのことに對して前例がないからと否定してしまうことがあります。スキー場で滑っていいかと聞かれても、大日方さんみたいな方が滑っているのを見たことがない



し、前例がないからと断ったりします。頭から否定するのではなくて、一緒に考えてその解決法をどうやって見つけていくか、もちろん行政もそうだし、健常者、マジョリティと言われるわれわれも、そういった意識の変化をしていかなければいけないのではないかと思います。

大日方 できないと断ることは簡単ですが何も生まれません。どうしたら解決できるのか、一緒に工夫したり、何のためのルールなのかを考えるとところからまた新しいものが生まれます。まさにスポーツだけではなくて、社会がどんどん変わっていくのは、ちょっとしたきっかけです。小さなソリューションが大きく社会を変える力になることをパラリンピックはすごくわかりやすく示せるのではないかと思います。



カール パラリンピックは人の意識を変えるためには最高のチャンスです。最近では国際化時代で外国人があちこちにいることにだれもびっくりはしないのですが、私が初めて日本に来た 40 年前、田舎では外国人がまちを歩いているだけで大騒ぎでした。それと同じように変えていくためには、パラリンピックで皆さんの活躍はいい宣伝になるのです。英語で awareness という言葉があります、社会をどうやって変えれば一番いいか、awareness を高め、スピードアップできるのがパラリンピックです。

上原 皆さんが理解してくださいよみたいなことだと全然だめで、われわれパラリンピックの選手たちからどうしていくか、どう接していくか、そういうことを重ねていかなければいけないと思っています。ただ障がいがあるから待っていますということではなくて、お互いが近寄っていかないといけないと思いますので、そういう意味では自分たちもいろいろと活動していきながら、皆さんの固定概念みたいなところを壊

していきたいと思います。

山本 いろいろなことが不可能だという固定観念があるので、私たちはできるのだという可能に変えたいと思っています。パラリンピック教材では「impossible から I'm possible へ」、本当にそれを体現して伝えることで、パラアスリートだけではなくて普通の障がい者の方もそれぞれが社会に対してできることがあると思います。不可能だと思われることを可能に変えていく活動をそれぞれができることでやってほしいし、一緒にやりたいと思っています。

早川 ここからは会場との双方向のやりとりということで、皆さんから何かご意見、ご質問があれば、お伺いしたいと思います。

会場 視覚障がい者です。現在 74 歳、いまだにフルマラソンを愛好して走っていますが、伴走者やいろいろな方の援助がとても大切です。またトレーニングの場所なども行政その他の協力が必要です。国際的にも障がい者権利条約が実現して、これも前進の糧になっていると思いますが、パラリンピックで成績を上げるためには、日常的な障がい者スポーツをもっともっと親しめるような環境、それを支える体制ができることが一番大事ではないかと思っています。

会場 子どもがやりたいと言っても大人が最初からできるわけがないという固定観念を持ってしまっていて、そこを打破することが難しいのですが、どうやって変えていったらいいでしょうか。

上原 私は自分の体を使って皆さんの固定概念を壊していくのが趣味なので、皆さんができないと思われることほどやりたいなと思っています。子どもたちに「できた」を体験させてあげることが自主的にこれやりたい、あれやりたいに最終的につながっていくと思います。

山本 自分自身の経験が一番大きくて、私ができないと言うと母親はやってみてから考えて、できるかできないか見せてみてというのが教育でした。いまでもできるかできないかは自分で決めずにやってみてから考えるということをしています。

早川 最後にパネリストから今日のパネルのまとめの言葉をいただいて閉めたいと思います。

長谷部 アスリートの皆さんとお話すると、僕ももっと頑張らなくてはというメッセージをもらいます。渋谷区としてもできる限りバックアップしますので、ぜひもっと表に出てください。多くの人の意識を変えるチャンスが来ていると思

いますので、このチャンスを逃さずに頑張りましょう。

大日方 パラリンピックの創始者のルートヴィヒ・グットマン博士は、「失ったものを数えるな、残されたものを最大限に活かせ」と言われました。過去は振り返ってもしようがない、いま、そして未来、たくさん残っているので、それを活かして皆さんと一緒にいい未来をつくっていきたいと思っています。

山本 パラリンピックには社会を変える力があると言われていています。パラスポーツのファンになってください。会場に足を運んでパラリンピックの力を感じていただければと思います。

上原 パラスポーツで活躍できる舞台をたくさんつくっていく日本になってほしい。私も一緒に行動しながら、パラリ

ンピックでだれもがハッピーになることをしていけたらいいなと思っています。私はいろいろなところで体験会等々をしていますので、皆さんもパラスポーツで交わっていただいて、いろいろなことを話しながらお友だちになっていただければと思います。

カール 皆さんの努力の話を伺って、パラリンピックはだれが見ていてもすごくいい激励を与えてくれるものだと思いますので、2020年にはいろいろ見たくになりました。皆さん、これからも頑張ってください。

早川 ありがとうございます。パネルディスカッションはこのへんでお開きにしたいと思います。パネリストの皆さんにもう一度拍手をお願いします。



フィナーレ 合唱



来年も是非、ご参加下さい！

第16回全国大会

日時:6月24日(日)午後

場所:渋谷区内(予定)



ご賛助をありがとうございます

飯田五郎 一越観光(株) 石田桂久 AYA交通(株) 弁護士尾崎毅 小宅肇 開進交通(株) 鍵山秀三郎 木藤繁夫(株)寿商会 小宮山忠雄 コンドル文化厚生福祉事業団 境交通(株) 三幸交通(株) ジェイワイエスジャパン(株) 渋谷ビル経営者協会 昭栄自動車(株) 省東自動車(株) 杉並交通(株) すばる交通(株) (公社)スコール家庭教育振興協会 つばめ交通(株) 虎門中央法律事務所今井和男 (株)とみひろ 弁護士中務嗣治郎 日興自動車(株) 日個連事業協同組合 日個連東京都営業協同組合 西会計事務所 日日交通(株) NPO 法人日本を美しくする会 野口修 パナソニックシステムソリューションズジャパン(株) (有)ひでの工芸 日吉交通(株) 弁護士深澤直之 不二交通(株) 富士自動車(株) 富士通(株) (株)ベーシック 保険情報サービス(株) 本州自動車(株) マコト交通(株) 龍生自動車(株) (株)リード (株)LOSA 和親交通(株) (五十音順)

オープニングアトラクション

本大会でも東日本大震災被災者支援のために製作されたヴァイオリンを使って中野りなさん(中学1年生)が「美しきロスマリン」(クライスラー作曲)、「ラ・カンパネラ」(パガニーニ作曲/クライスラー編曲)を演奏。また、パフォーマンスグループ「はっばオールスターズ」によるダンス・パフォーマンス「だまされないdeかきくけこRAPVer.」(作詞・作曲 葛いちえ/編曲 西川陽平)が披露されました。若者のパワー溢れる熱演に、会場から大きな拍手が送られました。

ヴァイオリン演奏 中野りなさん
ピアノ伴奏 小森谷裕子氏



ダンス・パフォーマンス はっばオールスターズ



受付の様子



ボッチャデモンストレーションリハーサル



開会前の打合せ



大会終了後の交流会では…ご尽力頂いた多くの方々に心からの感謝を込めて



おやじ日本が誇る舞台・ITチーム今年も大活躍！



NHKニュース、新聞等にて大きく報道！

◆「おやじ日本」25日に全国大会
 全国の「おやじの会」を支援するNPO法人「おやじ日本」が25日、東京都内で全国大会（読売新聞社、全国読売防犯協会共催）を開く。障害者スポーツへの理解を深めてもらうため、「パラスポーツから元気をもらおう！」とのテーマで講演や競技の実演を行う。
 25日午後1時25分から、渋谷区桜丘町の区文化総合センター大和田・さくらホールで。定員500人。資料代500円。問い合わせはおやじ日本事務所（03・3462・7113）へ。

↑平成29年6月20日読売新聞

平昌パラ大会
 注目選手紹介
 「おやじ日本」全国大会
 NPO法人「おやじ日本」の全国大会（読売新聞社、全国読売防犯協会共催）が25日、渋谷区内で開かれた。大会は15回目で、テーマは「パラスポーツから元気をもらおう！」。青少年の育成や障害者教育に興味のある約500人が参加し、パラリンピック出場経験者らの講演などに耳を傾けた。同法人は、企業などと連携し、子供たちに様々な社会体験を提供している。
 この日の基調講演では、1998年の長野パラリンピックの女子滑降などで金メダルを獲得した大日方邦子さん（45）が、2018年3月の平昌パラリンピック大会の見所や注目選手を紹介し、写真も撮り、障害者スポーツ「ボッチャ」の実演もあがり、都内の高校生たちの巧みなプレーに、会場から拍手が送られていた。
 同法人の竹花無理理事長は、「障害者スポーツには、今の自分ので精いっぱい、やれば道が開けると思わせてくれる力がある」と述べた。

↑平成29年6月26日読売新聞

未来教室 平成29年度

第1回	
日時	平成29年6月2日(金)13:25～14:55
学校名	墨田区立両国中学校
実施学年	2年生6クラス(221名)
課程等	総合的な学習の時間
授業内容	職業講話「働くということ」
協力企業	パナソニック株式会社 清水建設株式会社技術研究所 株式会社ゼンショーホールディングス ヤマト運輸株式会社 日本水産株式会社
第2回	
日時	平成29年6月12日(月)13:30～14:55
学校名	目黒区立大鳥中学校
実施学年	2年生4クラスおよび特別支援学級(137名)合同
課程等	総合的な学習の時間
授業内容	マナー教室～職場体験の事前学習～
協力企業	リーガロイヤルホテル東京
第3回	
日時	平成29年6月13日(火)13:35～15:25
学校名	渋谷区立松濤中学校
実施学年	2年生 2クラス(67名)合同
課程等	総合的な学習の時間
授業内容	マナー教室～職場体験の事前学習～
協力企業	リーガロイヤルホテル東京
第4回	
日時	平成29年6月30日(金)13:25～15:15
学校名	府中市立府中第五中学校
実施学年	2年生 5クラス(172名) 各クラス2企業の話聞く
課程等	総合的な学習の時間
授業内容	職業講話「世界で活躍されている企業人に学ぶ」
協力企業	東レ株式会社 読売新聞東京本社 日本アイ・ビー・エム株式会社 株式会社ゼンショーホールディングス 清水建設株式会社
第5回	
日時	平成29年7月8日(土)9:45～11:35
学校名	杉並区立東原中学校
実施学年	1～3年生 各2クラス(184名) 各クラス2企業の話聞く
課程等	総合的な学習の時間
授業内容	キャリア教育「生き方を学ぶ講座」～企業人の話を聞く会～
協力企業	読売新聞東京本社 日本水産株式会社 日本アイ・ビー・エム株式会社 あいおいニッセイ同和損害保険調査株式会社 三井住友カード株式会社
第6回	
日時	平成29年7月8日(土)9:45～10:35
学校名	目黒区立大鳥中学校
実施学年	1年生 4クラス(120名)
課程等	総合的な学習の時間
授業内容	キャリア教育
協力企業	株式会社ゼンショーホールディングス



～広がれ！おやじネットワーク～

おやじ日本山形大会開催！！

日時：平成29年11月18日(土)午後

場所：山形市内 詳細が決まり次第、ホームページでご紹介致します。

お問合せはおやじ日本事務局までご連絡下さい。

<http://oyaji-nippon>

TEL&ファクス03-3462-7113

◆◆ 活動報告 ◆◆

平成28年度

☆第4回定例理事会 3月25日(土)

審議事項

平成29年度事業計画について

平成29年度事業予算について

報告事項

平成28年度中間決算メモについて

未来教室について

防災教室について

iS運動について

83運動について

理事・監事任期日について 他



平成29年度

☆第1回定例理事会 6月3日(土)

審議事項

平成28年度事業報告について

平成28年度決算報告について

理事の選任について

理事長、副理事長及び常務理事の互選について

理事の担当職務について

監事候補について

総会議案について

役員報酬規程について 他

報告事項

認定NPO法人申請結果について

平成29年度正会員名簿について

事務局職員について 他



☆運営委員会

1月度運営委員会 1月28日(土)

平成29年互例会決算 渋谷区青少年委員研修会

平成29年度行政財産使用申請許可申請

ホームページドメイン更新 未来教室 防災教室

iS運動 83運動 他

2月度運営委員会 2月18日(土)

未来教室 iS運動 83運動 防災教室

渋谷区青少年委員会研修協力 第15回全国大会他

3月度運営委員会 3月25日(土)

第4回定例理事会報告 平成29年度事業計画

平成29年度事業予算 未来教室 iS運動 防災教室

83運動 東京都認定申請 第15回全国大会 他

☆運営委員会

4月度運営委員会 4月15日(土)

未来教室 防災教室 iS運動 83運動

第15回全国大会 他

6月度運営委員会 6月3日(土)

第1回定例理事会報告 未来教室 防災教室

iS運動 83運動 第15回全国大会 他

7月度運営委員会 7月8日(土)

第14回全国大会報告 大会決算 未来教室 防災教室

iS運動 83運動 他

☆第15回全国大会実行委員会

第2回実行委員会 1月28日(土)

第3回実行委員会 2月18日(土)

第4回実行委員会 3月25日(土)



☆第15回全国大会実行委員会

第5回実行委員会 4月15日(土)

第6回実行委員会 6月3日(土)

実行委員会報告会 7月8日(土)



☆第15回全国大会舞台・IT 技術チーム打合せ会

第1回 3月20日(日)

☆第15回全国大会舞台・IT 技術チーム打合せ会

第2回 4月23日(日)

報告会 7月17日(月・祝)

☆平成29年度総会 6月25日(日)(本誌p1に掲載)

おやじ日本の会議・活動日程はホームページに掲載しています。是非ホームページをご活用下さい。

アドレス:<http://oyaji-nippon.org/>

賛助・寄附のお願い

おやじ日本は活動の趣旨に賛同して下さる方々に賛助・寄附を募っております。皆さまからのご理解とご支援を頂きたく、お願い申し上げます。おやじ日本は、国税庁から認定NPO法人(国税庁課法11-86)として認定されていますので、おやじ日本に対して寄附または贈与された方につきましては、所得税、法人税または相続税上の課税について、寄付金控除等の特例が適応されます。賛助のご協力を頂ける方は下記振込先にご入金をお願い申し上げます。

みずほ銀行新橋中央支店 普通2059554 口座名 おやじ日本 / ゆうちょ銀行 00150-9-631618 口座名 おやじ日本
必要とされる方には領収証を発行させていただきます。ご理解、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

【発行】 認定特定非営利活動法人おやじ日本

住所:〒150-0042 渋谷区宇田川町5番2号 渋谷区役所神南分庁舎3階

TEL/FAX:03-3462-7113 URL <http://oyaji-nippon.org/>

desk@oyaji-nippon.org

事務局及び担当理事 丸山容子 大喜滋子 小菅操 小山洋子

編集協力 京須和恵 片山潮 丸山容子

写真提供 小川写真館 加藤多津生

※ここに記載の内容は全て無断転載を禁じます

